

30by30 ロードマップ未来対話（第1回）

百年の森林構想から、 自然資本を基盤とする 地域経営へ

森林・河川・農地・集落を、
暮らしと産業の基盤として再整理する

西栗倉村 産業観光課 春名一樹

2026.8.31



森林が地域経営の基盤

人口減少下で、森林を地域の持続性を支える共通基盤へ

約1,300人

1,267人・590世帯（2026年3月）

92.6%

村土に占める森林

83.6%

森林に占める人工林

2008

百年の森林構想を着想

森林管理 → 木材活用 → 脱炭素
→ ローカルベンチャー・関係人口

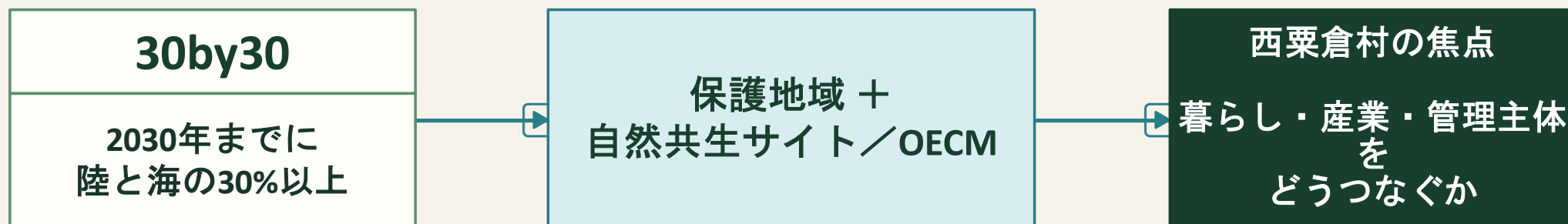


100年生のモデル林

森林を「負担」ではなく、暮らしと産業を支える基盤として扱ってきた。

面積の保全だけでなく、地域の営みを通じて自然を回復する

制度を、地域で管理し続ける仕組みへつなぐ



面積を確保するだけでなく、関わり続ける仕組みをつくる。

概念図

森林・河川・農地・集落を、生物多様性の視点でつなぎ直す

個別の実践はある。地域全体の戦略・空間計画・評価はこれから。



実施済み・運用中

木質バイオマス・小水力 | 環境学習・研修等

実施中

百年の森林事業 | 生物多様性地域戦略の策定 | 知社川再生

検討中

農地・水路・Bioたんぼ | 自然共生サイト等との接続

構想・方向性

百森2.0／森林RE Design | 森林機能分化・ランドスケープ空間計画

「実施」「検討」「構想」を分け、地域戦略の中で一つの目標へ統合する。

小さく試し、科学で確かめ、関係者を増やす

知社川で、回復の兆しと効果検証のデータが得られ始めた



仮設遡上路

サンショウウオ・魚類の通過を確認



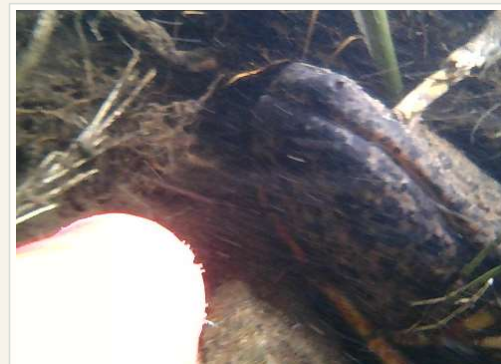
環境DNA

流域の分布・魚類相の把握を開始



子どものバーブエ

学校・大学・事業者が実践に参加



自然産卵床・幼生

第4堰より上流で確認

小さく試す → 科学で確かめる → 関係者を増やす

生物多様性の回復を断定する段階ではない。
回復の兆しと、取組の効果を検証するデータが得られ始めた。

岡山大学 | 香川高専 | 東京大学 | 学校・子ども | 村内事業者・企業 | 行政

測る、計画する、続ける

実践をランドスケープ全体の地域経営へ広げるための三つの壁

01

測る

- ・ 生物・生態系の基礎データ
- ・ 継続モニタリングの費用と人材
- ・ 効果を説明する評価指標

02

計画する

- ・ 経済林、主伐・再造林の区域
- ・ 広葉樹林化・自然環境林化
- ・ 森林、河川、農地、水路の空間計画
- ・ 所有者意向と地域合意

03

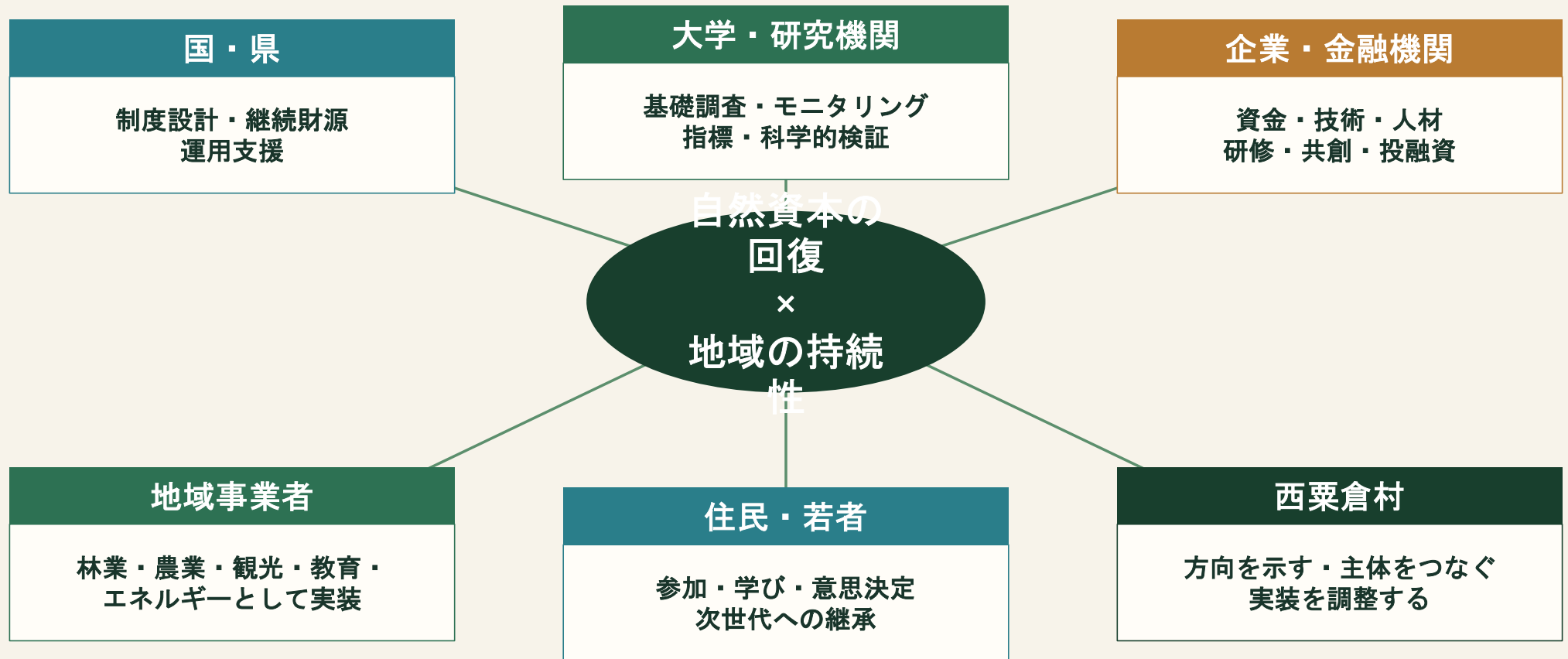
続ける

- ・ 補助金だけに依存しない財源
- ・ 受益者から現場への資金循環
- ・ 各主体の役割分担
- ・ 小規模自治体の限られた人員

課題を隠さず、外部の知見・制度・資金・人材とつながりたい。

各主体の強みを、地域の一つの目標につなぐ

自然資本から受ける価値と、地域へ戻す役割を結び付ける



価値を受ける主体が、知見・資金・実装を現場へ戻す。

概念図

西栗倉村の現場を、30by30・ネイチャーポジティブの実装モデルへ

- 01 人工林が大部分を占める地域で、生物多様性の状態と回復を、どの指標で評価すべきでしょうか。
- 02 経済林、里山林、自然環境林への機能分化を、どの制度、財源、合意形成によって実装できるでしょうか。
- 03 自然共生サイト等を認定で終わらせず、企業、大学、住民が継続的に関わり、資金が現場へ戻る仕組みにするには何が必要でしょうか。

自然を守ることを、地域が生き続ける仕組みに変える。

知社川再生の具体的な取組と確認された変化

予備資料 | 実施した行為と、確認・検証の状態を分けて整理



仮設遡上路

第1・第2堰で設置
河川の連続性を小さく再生



通過確認

オオサンショウウオ・
魚類の通過を確認

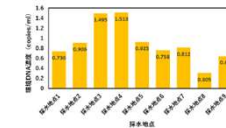


図2 採水地点ごとのオオサンショウウオの環境DNA濃度 (copies/ml)

表1 採水地点ごとのオオサンショウウオの環境DNA濃度 (copies/ml)

地点名	環境DNA濃度 (copies/ml)				平均
	10/11	20/11	30/11	40/11	
ブランク	0	0	0	0	0
採水地点9	0.363	0.381	1.084	0.734	0.64
採水地点8	0.613	0.453	0.155	0	0.305
採水地点7	0.625	0.783	0.811	1.027	0.812
採水地点6	0.841	0.652	0.448	1.09	0.758
採水地点5	0.813	0.75	1.218	0.918	0.925
採水地点4	1.026	1.572	1.746	1.71	1.513
採水地点3	2.181	1.91	0.902	0.889	1.495
採水地点2	0.582	1.491	0.744	0.558	0.966
採水地点1	0.645	0.516	1.182	0.6	0.736

環境DNA

流域内の分布と
魚類相の把握を開始



自然産卵床

第4堰上流で確認
幼生・親個体を調査

実施済み

仮設遡上路・人工産卵床・バークエ・河川内ビオトープ等

効果検証中

継続モニタリング、餌資源、個体群、河川環境の変化

岡山大学 | 香川高専 | 東京大学 | 学校・子ども | 村内事業者 | 企業 | 行政

百森2.0・森林RE Designの方向性

予備資料 | 機能に応じた森林管理を検討

完成したゾーニング図ではありません

経済林

木材生産を中心に
団地化・主伐・再造林

自然環境林

災害リスク・生物多様性
自然環境の回復を重視

里山林

集落に近い多様な利用
山菜・蜜源・景観・体験

基礎

航空レーザー測量・森林資源の見える化

未整理

具体配置・所有者意向・地域合意・制度・財源

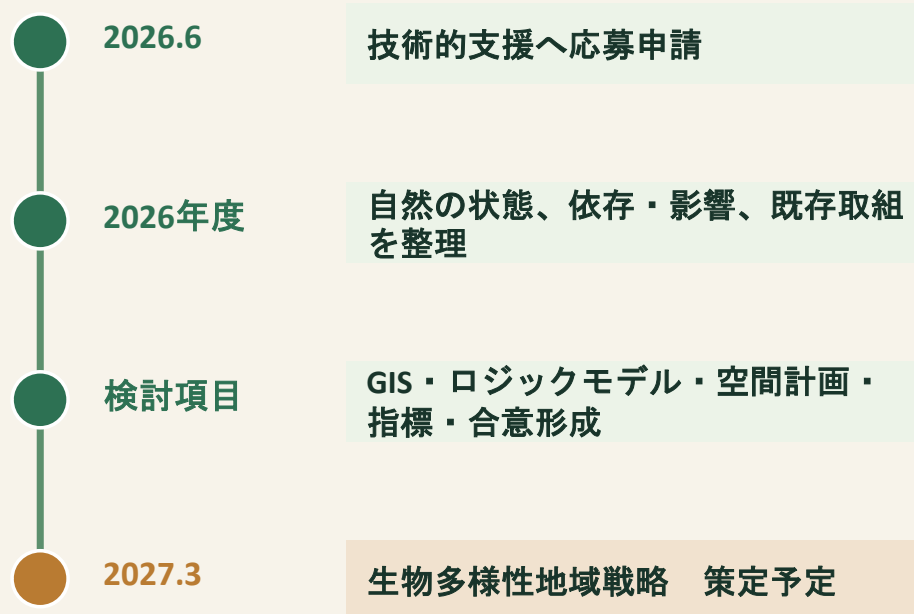
地形・成長量・災害リスク・生物多様性・地域の使い方を重ねて判断する

概念図

生物多様性地域戦略の策定スケジュールと推進体制

予備資料 | 2027年3月の策定を予定し、地域全体の目標と進め方を整理

策定スケジュール



策定済みではなく、2027年3月の策定予定

推進体制の考え方

